

安全データシート

改訂日:2023年1月23日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称(製品名)
会社名
住所
電話番号

アンモニア水
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
AA1275

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

金属腐食性物質:区分1
急性毒性(経口):区分4
皮膚腐食性/刺激性:区分1A
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分1
標的臓器/全身毒性(単回暴露):区分2(呼吸器系)
標的臓器/全身毒性(反復暴露):区分2(呼吸器系)
水生環境有害性 短期(急性):区分1

環境に対する有害性
ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
金属腐蝕のおそれ
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
飲み込むと有害(経口)
臓器の障害のおそれ(呼吸器系)
長期又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(呼吸器系)
水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
物質被害を防止するため流出したものを吸収すること。
他の容器に移し替えないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
漏出物を回収すること。

【救急処置】
皮膚(または毛)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
暴露した時、または気分が悪い時は:医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

【保管】
耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

混合物
アンモニア水

別名	水酸化アンモニウム
化学式	NH ₄ OH
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 1336-21-6
濃度又は濃度範囲	アンモニア 25%~30%
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(1)-314
4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。 皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 直ちに医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛 皮膚：腐食性。発赤、重度の皮膚熱傷、痛み、水疱 眼：腐食性。発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷 経口摂取：腐食性。胃痙攣、腹痛、咽頭痛、嘔吐
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 密閉された場所に立入る前に換気する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。
回収、中和	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 水で希釈した後、希釈した酸で中和する。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 水で希釈した後、希釈した酸で中和する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 火気注意。 局所排気装置を使用する。
局所排気・全体換気	
安全取扱い注意事項	
接触回避	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うがいをする。 火気注意。 飲み込みを避けること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 排気用の換気を行うこと。 眼に入れないこと。 取扱後はよく手を洗うこと。
衛生対策	
保管	
技術的対策	耐腐食性の内張りがされているもので、適切な容器で貯蔵すること。

適切な保管条件	最初の容器内でのみ保管すること。 施錠して保管すること。 酸化剤から離して保管する。 耐腐食性、耐腐食性内張りのあるもの、又は適切な材料の容器で保管すること。
混触危険物質	多くの重金属やその塩、酸
容器包装材料	ポリエチレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	25ppm 17mg/m ³ (NH ₃ として)
ACGIH	TWA 25 ppm STEL 35 ppm (NH ₃ として)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	保護マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
目の保護具	ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業衣を着用する。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	無色の液体
臭い	刺激臭
融点/凝固点	融点: -44.5°C (24%), -69.2°C (28%), -77.7°C (ガス)
沸点又は初留点及び沸点範囲	37.7°C (25%), 24.7°C (32%)
燃焼性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	アルカリ性, 12 (20°C, 100g/L)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	該当情報なし。
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	0.898
相対ガス密度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。
避けるべき条件	該当情報なし。
混触危険物質	多くの金属類やその塩、酸
危険有害な分解生成物	引火性/爆発性気体(水素)
11. 有害性情報	
急性毒性	経口-ラット LD ₅₀ 350mg/kg(区分4)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	SITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)、ICSC(J)(1995)、EU-Annex I(Access on Jun. 2005)のヒトへの影響において腐食性が示されている。細区分の指標となる動物の試験データが見つからないため、区分1Aとした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	RTECS(1997)およびHSDB(2003)のウサギの試験データ、SITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)、ICSC(J)(1995)のヒトへの影響において腐食性が示されており、区分1とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。(分類できない)
生殖細胞変異原性	該当情報なし。(分類できない)
発がん性	該当情報なし。(分類できない)
生殖毒性	該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回暴露)	Priority 2文書のICSC(J)(1995)にヒトへの短期ばく露の影響として「気道腐食性を示し、高濃度の蒸気を吸入すると喉頭水腫、肺炎等を起こす」との記述があり、区分2(呼吸器系)とした。この他、Priority 2文書のSITTIG(4th, 2002)、DHP(13th, 2002)、RTECS(1997)にも吸入ばく露により肺水腫等を起こすとの記述がある。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	Priority 2文書のICSC(J)(1995)にヒトへの反復ばく露の影響として「蒸気やエアロゾルに反復ばく露すると肺が冒される」との記述があり、区分2(呼吸器系)とした。Priority 2文書のSITTIG(4th, 2002)にも「低濃度の反復ばく露により慢性気管支炎を起こす」との記述がある。
誤えん有害性	該当情報なし。

12. 環境影響情報

生態毒性

短期
(急性):

甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50=0.66mg/L(HSDB、2004)から、区分1とした。

長期
(慢性):

水生環境中で速やかに硝化され、また、本物質は生体内においてタンパク質の分解過程で産生されることから排出の機構があり生物蓄積性はないとみなされることから、区分外とした。

残留性・分解性

該当情報なし。

生態蓄積性

該当情報なし。

土壤中の移動性

該当情報なし。

オゾン層に対する有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号

2672

品名(国連輸送名)

アンモニア水

国連分類

クラス8(腐食性物質)

容器等級

III

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

国内規制がある場合の規制情報

毒劇法に従う。

陸上輸送

消防法の規定に従う。

海上輸送

船舶安全法の規定に従う。

航空輸送

航空法の規定に従う。

応急措置指針番号

154

15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

指定化学物質に該当しない。

毒物及び劇物取締法

劇物(アンモニア10%を超えて含有する製剤)

労働安全衛生法

施行令第18条の2[名称等を通知すべき有害物(SDS対象物質)](アンモニアを含有する製剤)

消防法

特定化学物質第3類物質、腐食性液体

水質汚濁防止法

危険物に該当しない。

海洋汚染防止法

有害物質

船舶安全法

有害液体物質(Y類物質)

航空法

腐食性物質

港則法

腐食性物質

危険物・腐食性物質

16. その他の情報

引用文献

16615の化学商品(化学工業日報社)

職場の安全サイト(厚労省HP)

化学大辞典 共立出版

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。